

令和8年7月3日

農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況（7月1日現在）

○生育状況調査（普及センター調査ほ：中苗）

区分	ななつぼし			遅速 日数 平年差	備考 ()内は平年差 ※ななつぼし	ゆめぴりか		
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)			草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)
R8年	44.3	9.1	525.1	+1	幼穂形成期 6/30 (+1)	45.6	9.5	521.9
平年値	45.7	8.8	500.6			46.6	9.2	531.4
差	-1.4	+0.3	+24.5			-1.0	+0.3	-9.5

(1) 6月の気象は平均気温が平年並～やや高く、日照時間が多く、降水量は平年並でした。本年の幼穂形成期（中苗）はゆめぴりかで6月29日、ななつぼしで6月30日ですが、移植後の活着状況等によりほ場間差が見られます。

(2) 幼穂形成期から10日間が前歴期間、10日後から1週間が冷害危険期となります。この期間の水管理の善し悪しは不稔発生に大きく影響します。幼穂形成期を確認したら、目標水深を確保するとともに止め水とし、水温の確保を行ってください。

①前歴期間：花粉の数を決定づける大事な時期です。平均水温は25℃以上を確保しましょう。水深は4～5cmから1日1cm程度高くなるようにし、水深10cmになるよう徐々に深水にしましょう。ただし、茎数が少ない場合（m²当たり600本以下）は幼穂形成期から5日間の水深を4～5cm程度に維持して分げつを促進させ、その後徐々に入水し水深を10cmにしましょう。

②冷害危険期：前歴期間に作られた花粉の発育を維持する時期です。水深は10cmから幼穂の伸長に合わせて1日1～2cm程度ずつ水深を増加させ、最大水深18～20cmになるようにします。

(3) 病害虫の発生状況

ア 葉いもち：7月1日現在、初発は確認されていませんが、過去に発生したほ場を中心にほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。また、補植用の取り置き苗が放置したままだと、いもち病の発生源となります。早急に撤去してください。

イ アカヒゲホソミドリカスミカメ：北海道病害虫防除所によると、本年の成虫の発生期は平年より早く、発生量は平年よりやや多いと予想されています。畦草刈りや防除の準備等、計画的に進めてください。

2. 畑 作

(1) 秋まき小麦

出穂後約1ヶ月頃から穂水分測定による収穫予測が可能になります（本年の出穂期：5月27日頃）。ほ場毎の収穫適期を予測し計画的な収穫体制を整えましょう。

(2) 豆 類

豆類の生産性は根粒菌が行う窒素固定や地力窒素に大きく左右されます。そのため根粒菌の着生が少ない場合や活性が低いほ場では追肥を行います。追肥は、大豆では生育や根粒菌の着生状況で、小豆では生育や地力を考慮し実施の有無を検討しましょう。

＜追肥の目安と時期、施肥量＞

- ・大豆（根粒菌が1個体あたり10個未満の場合） 開花始め頃に窒素5kg/10a
- ・小豆（生育が劣っていたり地力が低いほ場） 第3本葉展開期頃に窒素5kg/10a

(3) ばれいしょ

○疫病：7～10日間隔で防除を実施してください。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

○軟腐病：高温多湿条件では発生が多くなります。また窒素過多や倒伏したほ場も注意が必要です。初発を確認したら速やかに防除を実施しましょう。

3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：2～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：1～2段目開花 ・灰色かび病、着色不良果、軟果等が発生している	・6月定植作型の低段（1～3段目）の摘花を行う ・高温対策として遮光・遮熱を行う ・下葉の摘葉を行い通気性を確保する ・定期的な薬剤防除を行う ・6月定植作型はめがね茎・芯腐れ予防に、ホウ素を含む液肥、葉面散布剤を活用する
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中	・ハウス周辺の除草を行う ・アザミウマ類の早期発見・防除に努める
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め ・生育は概ね順調である	・斑点病の早期防除に努める ・1回目の散布後は10～15日間隔で継続して散布を行う ・ハウス周辺の除草を行う
かぼちゃ	・一番果着果～肥大期	・畝間に追肥し中耕する

4. 飼料作物生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業		適要
	項目	R8年 (平年)	出穂期 (平年)	遅速 日数	一番草収穫期 (平年)		
牧草	草丈 (cm) (1番草)	91.4 (92.9)	6/8 (6/11)	+3	6/18 (6/21)		収穫は、断続的な降雨の影響もあり、平年並で進んでいる
飼料用とうもろこし	草丈 (cm)	92.9 (91.6)		+1			生育は平年並で推移している
	葉数 (枚)	9.8 (9.7)					

●牧草割合を維持するため追肥を行いましょう

1番草収穫後の分けつ発生には、追肥が必要です。分けつを増やすことは、収量だけではなく、雑草の侵入を防ぐ上でも重要です。草種に合わせて適期に追肥しましょう。

●防疫対策を行いましょう

夏期は気温と湿度が高く、乳房炎を始め様々な疾病が発生しやすくなります。防疫対策を徹底しましょう。

ア 農場出入口には車両用に消石灰(目安：0.5～1kg/m²)を散布し、消毒帯(長さ2m以上、タイヤ一周分)を作りましょう。畜舎等の出入口には、踏み込み消毒槽を設置しましょう。

イ 牛舎出入口にネットを設置し、野生鳥獣の侵入を防止しましょう。

ウ 換気を行い、敷料の交換頻度を高め、牛体(乳房・乳頭)を清潔に保ちましょう。

エ 搾乳機器・バルククーラーは定期的に点検し、部品交換を行い、異常が確認された場合は速やかに修理しましょう。